

第1学年 生活科の実践

1 単元名 スーパー（ウルトラ）家族 大作戦

2 単元目標

- 家庭生活を支えている家族のことを振り返り、家の仕事や家族の愛情に気がつくとともに、家族の一員として自分にできることを考え、進んで自分の役割を果たすことができる。

A生活への関心・意欲・態度	B活動や体験についての思考・表現	C身近な環境や自分についての気付き
1 家族のことや家の仕事に関心をもち、進んで調べることができる。 2 家族の一員として自分でできることを見つけ、進んで行うことができる。	1 家族のことや自分でできることについて考えることができる。 2 家族や家の調べたことや体験したことを、文に表したり友達に伝えたりすることができる。	1 家族に支えられていることや、家族の愛情に気付くことができる。 2 家族が家庭生活を支えるために協力して仕事をしていることを知り、自分でできることを進んで行うことが大切であることに気付くことができる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

<単元と指導>

① 単元について

この単元は、学習指導要領の（2）の内容を受け、家族の愛情や自分の役割に気付くことができるよう、仕事調べや手伝いの体験や活動を中心に設定している。

（2）家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができるようにする。

児童にとって家族とは、もっとも関わりの深いものであり、自分を支え育てくれる家族がいるところである。家庭では、一人ひとりがそれぞれの役割を果たすとともに、お互いに思いやりや愛情を持って互いに支え合い、家庭生活が営まれている。児童が毎日を元気に伸び伸びと過ごしているいろいろなことを学習し、吸収していくためにも、家庭とはとても重要なものと考えられる。しかし、家庭とは児童にとってとても身近なものであるために、毎日してもらっている中にある思いやりや愛情、大切さに気づかないことが多い。「家族が大好き」という気持ちはあるものの、実態でも書いたようにしてもらうのを「あたりまえ」と感じている児童がいるのも事実である。

そこで、本単元を学習することで、改めて自分の家族を見つめ、家族の支え合いによって毎日の自分の生活が成り立っていることを知ってほしい。そして、家族のために自分は何ができるかを見つけ、それを実際の生活の中で実践していくようにさせたい。そのために、始めに「家族自慢」から単元に入りたい。児童は家族が大好きである。宿題で出している日記の中にも、家族で遊んだことや家族がしていること、お手つだいたことが多く書かれている。自慢の中には、「料理」や「洗濯」などの家の仕事も多く出てくるのが予想されるので、そこから「家族はどんな家の仕事をしているのだろう」という思いを持つことができるだろう。そして調べたり実際にやってみたりする中で、こんなに大変な仕事を毎日してくれる家族に「ありがとう」と伝えたいという感謝の気持ちを持つことができるようにしたい。感謝の気持ちを持つことができれば、「手伝いをしたい」という気持ちを持つことができるであろう。そして、児童は1回目、2回目と手伝っていくことで「さらに上手になりたい」「自分にまかせてほしい」「自分の仕事」という気持ちを持ち、行動していくことができる。また、「家族の愛情」という家庭の根本にある大切なものに気付くことができるであろう。そして、自分のできることに一生懸命取り組み、家族の一員として生活をよりよくしていく態度を育むことができるとともに、それが自分の自信にも繋がると考える。

② 家族の愛情に気がつき、感謝の気持ちを持てるようにするために

この単元では、「家族の愛情」を大切にあっていきたい。家族の愛情に気がつき、「自分もその家族のためにできることをしたい」という思いを持つことが、児童の切実な思いにつながると考えられるからである。そのために、家族の気持ちを考える時間を、単元の中間と最後の2度設定した。2度設定することで、調べたあとの表面的な「ありがとう」から、活動し体験したあとの心からの「ありがとう」に変化すると考えるからである。心から「ありがとう」という気持ちをもつことで、学習のあとにも自分でできることを続けていってほしい。

他にも、体験を多く取り入れていきたい。始めの体験として「仕事調べ」をすることで、「こんなに大変なことを毎日してもらっている」という感謝の気持ちをもてるようにする。そこから、自分はどうかを考えていけるようにしたい。低学年の児童にとっては、考えたり調べたりしてみることだけではなく、体験することで多くのことに気付くことができる。家族が毎日していることとはどういうことなのかを、体験することで深く理解してほしい。また、手伝いも1回だけではなく2回行うことで、「家族のためにがんばりたい」「もっとよりよくなりしたい」「自分にまかせてほしい」という気持ちをもてるようにしていきたい。

この学習では生活科に関するお便りを出すことや、児童が活動したことに対してコメントをもらうことで、家族のつながりも深く感じられるようにしていきたい。

③ ひびき合い、関わり合うために

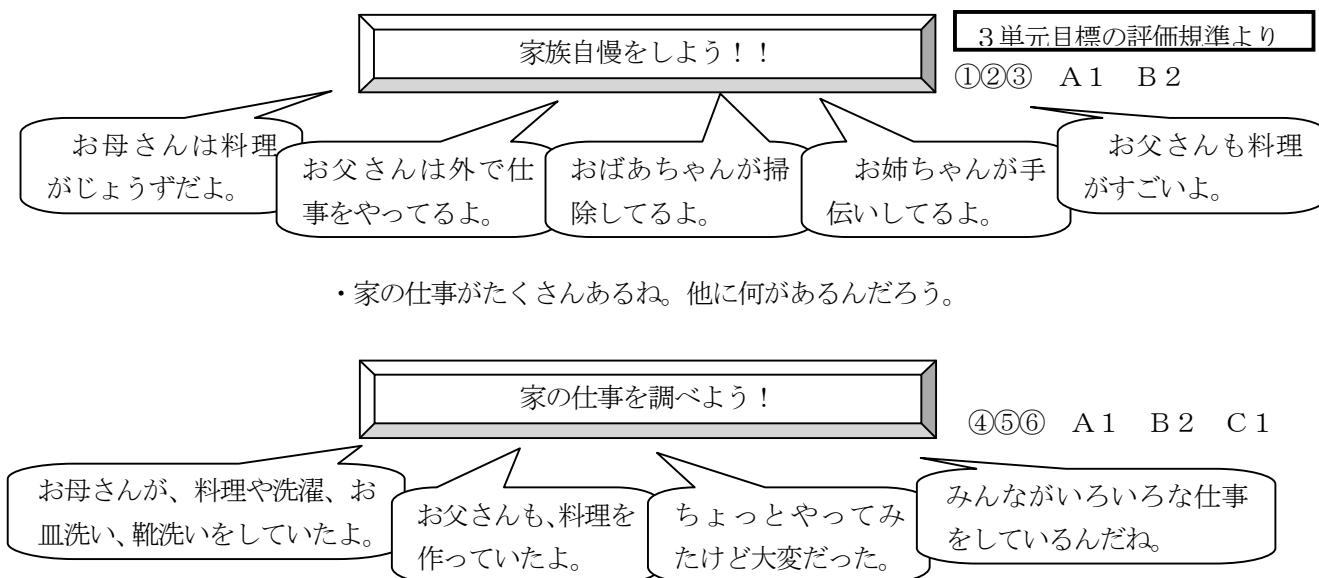
ひびき合い、関わり合うために、体験したことをペアやグループで伝え合い、その後に全体で発表し気づいたことを話し合う場面を設定したい。本学級の児童は、全体で友だちの発表を聞いても、なかなかそれに自分の考えや感想を言うことが難しいという実態がある。ペアやグループでの話し合いは、自分の頑張ってきたことを十分に話すことができるとともに、発表が恥ずかしいと感じている児童にとって人数が少なく発言しやすい環境になる。また、話し手は相手を意識して話をすることができ、聞き手の方も自分の調べてきたこととの相違点を意識して聞くとともに、自分の感想も簡単につぶやくことができると考えられる。

また、仕事を調べたあとの少人数の話し合いでは、自分の家の仕事と友だちの家の仕事の同じところや違うところを見つけられるようにしたい。次に、手伝いをした後の話し合いでは、それぞれ手伝いの内容別のグループでやり方について話したり困ったことについて教え合ったりすることで、さらに上手に仕事をするができるように高め合うことができるようにしたい。そのために、ここでも活動を取り入れ、分かりやすく説明できるようにする。

4 単元指導計画

【日常の会話・日記の様子より 手伝い・家族について】

- ・お父さんとサッカーをしたよ。 ・ママといっしょにプリンを作ったよ。 ・家族みんなで出かけたんだ。
- ・パパは遠くで仕事をしているんだ。12月に帰ってくるよ。 ・妹のお世話をしたよ。 ・おかあさん料理が上手だよ



- ・なんでこんなに大変なことをしてくれているんだろう。
- ・やらないと、みんなが困っちゃうよ。
- ・家族のためにやっているんだよ。



ありがとうございます。できることをやってみよう！

⑦⑧⑨

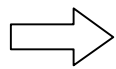
A2 C1 C2

あんなに大変な仕事をしているんだから、自分もなにか手伝いたいよ。

ありがとうの気持ちをこめて、お手紙を書こう。

なにか折り紙で作ってプレゼントしたいな。

- ・ぼくは、料理をしてみたいな。
- ・私は、洗濯物をたたみたいよ。
- ・お風呂洗いもしてみたいな
- ・掃除を手伝うよ。



お家でやってみよう！①

手紙・プレゼントが出た場合にも、最後に時間を確保する。

こんな仕事をしてきたよ！

⑩本時 ⑪

A2 B2 C2

こんな風にやったよ

うまくできなかった。

ありがとうって言われてもっとやりたくなったよ。

こうやると上手にできるよ。
お家の人はもっと上手だった。

- ・もっとうまくできるようになりたいな
- ・ぼくにまかせてほしいな。
- ・ほめてもらいたいな



もっと上手になりたいな。〇〇は私にまかせて！

⑫⑬⑭

A2 B1 C2

仕事をまかせてほしい！

どうやったら、仕事をまかせてもらえるかな

もっと上手になればまかせてもらえるかな。

やり方を、もっと教えてもらおう。

お家でやってみよう！②

振り返りをしよう

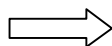
こんな風にしたら、前よりよくなったよ。

これからも続けていきたいな。

他の仕事もできるようになりたいな

ありがとうと言われると嬉しいな。

- ・手紙でありがとうを伝えよう。
- ・プレゼントしたいな。
- ・もっといろいろなことができるといいな。



家族みんなのために、
できることをがんばろう！

5 本時について

(1) 本時目標

家でやってきた仕事について発表したり友だちの話を聞いたりして、家には自分でもできる仕事があることに気づき、自分の仕事としたいという思いを持つことができる。

(2) 本時展開

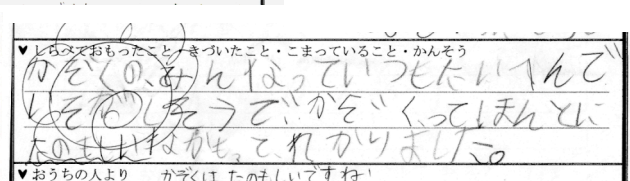
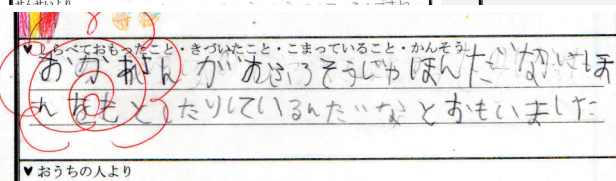
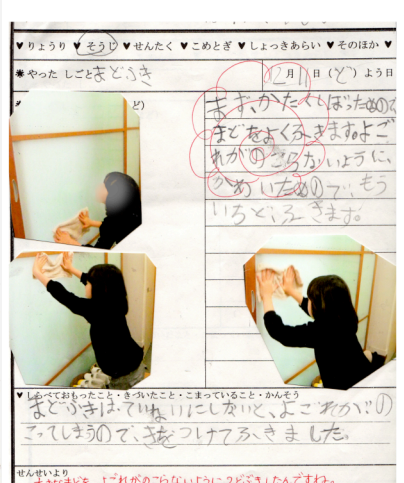
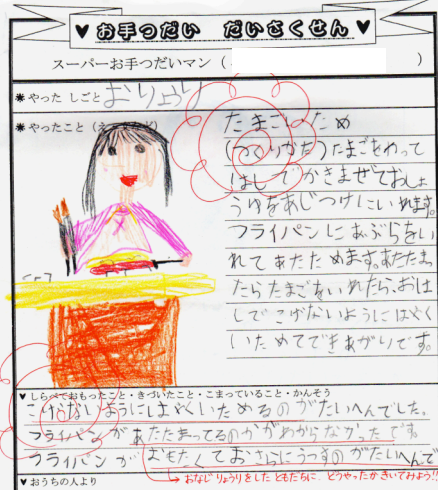
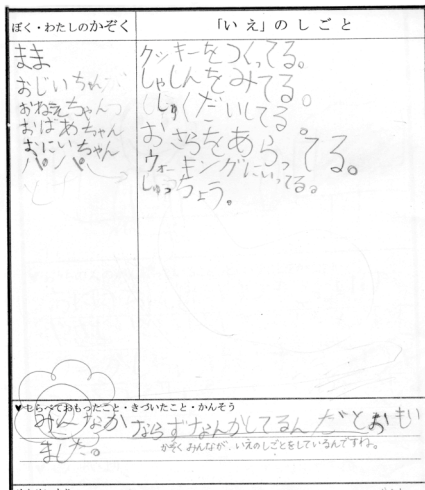
学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点 評価 (◇)
1 前時までの学習を振り返る。	・ 今まで学習してきた、仕事を調べや手伝いをしたことを振り返り、学習への意欲を高める
2 めあての確認をする 家でしてきたお仕事を、みんなに知らせよう。	
3 グループごとに、やってきた仕事の内容や気づいたことを伝え合う。 ・ やって見たら難しかったよ。 ・ こうやると、上手にできるよ。 ・ ここが上手にできなくて困ったけど、みんなはどうやったの？ ・ もっと、こうやればいいんじゃない。 ・ やりかたがぼくと違うね。 ・ お母さんに褒められたよ。 ・ お母さんのようにうまくできなかったよ。 ・ もっと上手になりたいね。	・ グループごとに発表することで、やってきた仕事について一人ひとりが発言する場を確保する。 ・ 困っていることや、良さや違いも伝えられるように助言する。 ・ 服や食器、スポンジなど、手伝いで使った物を準備しておくことで、活動しながら発表できるようにする。 ◇ 家でやってきた仕事について友だちに伝えたり、興味をもって発表を聞いたりすることができる。 【思・表】
4 全体でグループごとの仕事を発表する。 ・ こんな風に仕事をしてきました。 ・ ここが難しかったです。 ・ こうやると、上手にできます。 ・ 友だちのやり方のここが良かったです。	・ 全体でも発表の場を設定し、友だちのやり方や考えを聞くことができるようにする。 ・ 手伝いに使った物を準備し、動作化しながら説明できるようにする。
5 全体で気づいたことや思ったことを話し合う。 ・ もっとやってみたい。 ・ もっと上手になりたい。 ・ 他のお手伝いもしてみたい。	・ 学習シートに書いてある気づいたことにコメントを入れ、自信を持って発表できるようにする。 ・ 発表を聞いて思ったことや感想も発言していいことを助言する。
6 振り返りシートで振り返りをする。	◇ 家には、自分でできる仕事があることや、いろいろなやり方があることに気付くことができる。 【気付き】

6 実践を終えて

① 単元を通して

この単元を構成していく上で大切にしたのは、「家族への思い」である。本来ならば、自分の1日の生活を振り返ることから単元が始まるのだが、日記に家族のことや、家族の仕事のこと書く児童が多いため「家族自慢」から単元に入ることにした。児童が書いた家族自慢には、「料理がうまい。」「仕事を頑張っている。」「掃除をしている。」など、家での仕事についてたくさん出てきた。そこで、「たくさん家の仕事のことが書かれているね。どんな仕事があるのかな。」と発問することで、「もっと仕事を調べてみたい!」「家の仕事探偵だね。」と、家の仕事へ目を向けることができた。児童は、家の仕事を調べる中で、「家族みんなが仕事をしているんだ。」「すごく大変そう。」「家族のためにやってくれているんだ。」と、今まではあたりまえだと思っていたことがそうではないことに少しずつ気がつき始めた。中には、「嬉しい。」「ありがとう。」「手伝いたい。」という思いを持つ児童もでてきたので、「ありがとう」という気持ちを取り上げることで、自然と児童から「手伝いをしてありがとうを伝えたい!」と強い思いが出てきた。

手伝いを実際にするようになってからは、児童は積極的に活動を始めた。家からも、「自分から手伝いをしたいと毎日言ってくるようになりました。」と感想が来ている。手伝いをする中で家族と触れ合えることの楽しさを感じている児童もいれば、その大変さを知り「自分も家族のために手伝いをしたい。」という気持ちで仕事をする児童もいた。それぞれに少しずつ思いは違ってしまっただが、「自分も家族の一員だから、家の仕事を一緒にしたい。」「自分も一つの仕事をもちたい」という気持ちも持つことができた。



② 本時の課題について

本時は、「家でやってきた仕事について発表したり友だちの話を聞いたりして、家には自分でもできる仕事があることに気づき、自分の仕事としたいという思いを持つことができる。」という課題で授業を行った。それまでに、仕事を調べたり自分で選んだ仕事をやってみたりしてきているので、「友達に伝えたい。」「聞いてみたい。」という思いを持つことができるだろうと考えていた。しかし、グループではお互いに伝え合うことができたものの、全体ではあまり切実さを持つことができなかった。これは、手伝いの内容がそれぞれで、共通の土台がないためであると考えられる。共通の土台があれば、友達がどのように手伝いをしてきたのか、自分と比べてどうなのか知りたいという、切実な思いを持つことができたのではないだろうか。しかし、児童のクラスの実態を考えると、やはり家はそれぞれに違い、同じ仕事をするのは難しい。今回の本時の流れの中で切実さを持たせるためには、「自分と比べてどうなのかを考えて聞いてみよう。」という発問が大切だったと考えられる。何のために発表を聞くのかをおさえることで、たとえ同じ仕事をしていなくても、自分の家族を振り返ることができる。それぞれの家族の実態や、活動の質、やる時間などをしっかりと把握し、発問していく必要があった。

③ 成果と課題

【ひびき合いについて】

○ 体験や活動

この単元では、「手伝い」が中心となる。そのため、実際に家で手伝いをしたり、学校でも実際に実物を使ってやったことを伝えたりするようにした。児童にとって体験するということはとても大切であり、経験したことを細かく友達に伝えることができた。また、実物を準備することで細かいやり方や、そのときの自分の気持ちまで伝えることができるとともに、聞いている方も自分を比べながら見ることもできた。しかし、包丁や火を使ったもの、洗濯機などは実物を準備することができなかった。本来なら、包丁や野菜なども準備し実際にやりながら発表すると、気をつけなければいけないことやその怖さ、工夫などにも気づくことができる。しかし、児童の安全面を考えると、包丁や、火を使うものは難しくなる。ボランティアなどで児童の安全を確認することができるならば、実物の準備もできると考えられるが、すべての手伝いの内容を実際に実物を使って発表する難しさを感じた。

○ グループ・ペアでの発表

他の教科やこの単元を通して、ペア・グループでの話し合いを多く取り入れてきた。グループでの発表は、全体で発表することが苦手な児童にとっても自分の考えを伝えやすい場であり、全員が授業中に意見を伝える場を確保することができた。始めは決められたことだけ発表していた児童も、「すごいね。」「ここは私と違うな。」と、つぶやくようになり、感想で「友達のやり方を聞いて、自分も友達みたいにやってみたいと思った。」と書く児童も少しずつ増えてきた。本時では、まだまだ思いを語るまではいかなかった。②の本時の課題についてでも書いたが、なぜ発表するのかということをしかりとおさえるとともに、普段から児童が語り合える雰囲気作りをしていく必要があった。

○ 児童の思いを大切にしたい課題設定

単元を通して、「家族への思い」、そして「児童の思い」を大切にしたい課題を設定してきた。家族を嫌いな児童はいない。そのため、普段からある家族への思いを大切にしていきたいことで、自然と児童の思いへつながったように思う。また、児童の学習への思いを大切に、学習に切実感を持たせることによって、それが「友達に伝えたい。」「もっと友達の考えを聞いてみたい。」というひびき合いにつながっていくのではないだろうか。まだ、発表が一方通行のように思われる低学年であっても、友達の考えを聞いて、自分の考えを持つことができるようなひびき合いにつなげることができると思われる。

単元を通して、児童が家族を意識し、家族の愛に気づくという目標は、概ね達成できたと思われる。しかし、切実な思いやひびき合いについては課題が残った。まず切実な思いについては、この単元のような家族にかかわるものについては、児童の興味・関心の把握だけではなく、家族の様子や児童の活動時間なども把握することで、さらに児童の考えを生かし、発問も考えられることができるとわかった。家の細かいことまでになるとなかなか把握は難しいと考えられるが、普段の児童の会話の中からでも知ることができる。普段の授業、生活などでも、しっかりと児童理解をする必要がある。

ひびき合いについては、より豊かなひびき合いをするためにどうすればよいのかが課題になった。児童が語りあい、お互いの気持ちや考えを交換してひびき合うためにも、児童の思いを大切にしたい単元計画や、切実さのある授業を普段からよく考え、授業をすると良いと考えられる。普段の授業で児童が語る場面を多く設け、気持ちを伝え合える雰囲気のあるクラス作りをしていきたい。また、話すこと・書くことが苦手な児童が、どうひびいているかを知るためにも、つぶやき、表情などもよく見ながら授業を進めていきたい。